

ふるさとの星

森野 水琴

ふるさとの海沿いが被災したという知らせを、東京で聞き彼は驚く。彼の実家は扇状地のかなめ、山のふもとにあり、難を免れている。

隣県の被害は甚大で連日の映像に彼の心が痛む。

彼は高校を卒業後、隣県で五年間働いただけに他人事ではない。

だが今、何が出来るか彼は自らに問いかける。

彼は既に定年になり年金暮らしをしている。

長年にわたり学んでいるフランス語も続けたい。

百キロマラソンも完走してみたい。

伸びしろだらけで、夢が次々生まれる。

夢の実現に向けて励むこと、それが彼に出来ることである。

このまま続けければ、ふるさと期待の星になれるかもしれない。

誰も期待しなくても、彼自身が期待している。

自ら輝く星になろう

背筋が伸びて 武者震い

見上げる夜空に 星が ふるえる